

いちご新品種「とちあいか」の土壤消毒法の違いが収量・品質に及ぼす影響

要約

エタノール土壤還元消毒法における畝上げ前消毒は、畝上げ後消毒に比べ収量は約1割減収となったが、畝上げ前に消毒することで、障害果の発生は抑えられた。

○ 展示のねらい

農業試験場いちご研究所が開発した「とちあいか」は、初期生育が旺盛になる畝上げ後消毒において空洞果の発生が多かった。そこで、畝上げ前消毒による、障害果の発生等、品質への影響を検証する。

供試区：畝上げ前エタノール土壤還元消毒

対照区：畝上げ後エタノール土壤還元消毒（慣行）

○ 主な成果

表1 月別収量及び障害果率

| | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 合計 | 障害果率 (%) |
|----------|----------|------|-------|------|------|-------|-------|------|----------|
| | (kg/10a) | | | | | | | | |
| 供試区 | 77 | 969 | 1363 | 1016 | 1622 | 1238 | 1669 | 7953 | 1.7 |
| 対照区 | 144 | 1275 | 1321 | 1361 | 1797 | 1241 | 1544 | 8683 | 6.5 |
| 対照区比 (%) | (53) | (76) | (103) | (75) | (90) | (100) | (108) | (92) | (27) |

※障害果率は調査区画の株より調査

※収量は生産者出荷実績（バック数）より換算

表2 B品率

| | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 合計 |
|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 供試区 | 18.2 | 3.1 | 3.0 | 2.6 | 1.6 | 0.8 | 2.2 | 2.3 |
| 対照区 | 33.9 | 8.0 | 1.9 | 2.6 | 2.1 | 1.0 | 1.2 | 3.2 |

- ・ 可販果収量は、供試区が対照区より1割程度少なかった（表1）。着花数に差がなかったことから、対照区の1果重が重くなったと考えられる。
- ・ 障害果の発生は、対照区の各花房のトップ玉で先つまり果、先青果の発生があったが、供試区で発生が抑えられた（表1）。空洞果については、対照区の頂花房で数果程度発生したが、その後の発生は見られなかった。供試区では空洞果の発生はなかった。
- ・ B品率は、11月及び12月は供試区が対照区に比べて少なかったが、全期間では供試区で2.3%、対照区で3.2%と大きな差は見られなかった（表2）。重度の先つまり果や不受精果等の規格外のものは両区とも1%未満であった。

○ 今後の方向性

畝上げ前消毒は障害果の発生が少なくなるものの、収量が減少するので、その点を踏まえた推進が必要である。

実施機関：塩谷南那須農業振興事務所経営普及部 実施場所：高根沢町

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315